

第16次派遣(美里)

8月21日(日)~8月27日(土)

班長：傳田 俊昭さん(長野)

野田 浩也さん(東海)

岩本 拓也さん(中国)

《全労金第16次派遣の3名が出発しました!》 8月21日

全労金第15次派遣の中央労組・小此木書記長、九州労組の太田さん、大変お疲れ様でした。

そして、本日から全労金16次派遣として、長野労組の傳田 俊昭書記長、東海労組の野田 浩也さん、中国労組の岩本 拓也さんが美里BCへ出発しました。美里BCまでは片道7時間と長時間の移動になります。

全国の組合員のみなさん、3名の方への温かいエールをよろしくお願いします。



《左から岩本さん、野田さん、傳田さん》



《美里BC 到着》 8月21日



全労金第16次派遣団は、連合本部を11時に出発し17時30分に美里BCに到着しました。

今回のチーム美里のメンバーは、自動車総連さん13名、航空連合さん2名、全国農団労さん1名、そして全労金3名、計19名の仲間です。

到着後、結団式を行い明日に備えることになりました。いよいよ明日から活動が始まります。一週間という限られた時間ですがこれまでつないできた全労金運動を受け継ぎ、被災者・被災地の復興に向け心と気持ちを込めた活動をしたいと思います。(報告者 傳田=でんだ)

《活動初日》 8月22日



活動初日です。天気が崩れてしまい、あいにくの雨での作業初日となりました。当初、東松島周辺と聞いていましたが、牡鹿半島へ場所が変更。BCからバスでの移動となりました。石巻市牡鹿公民館の地協で作業場所等の確認を行い現地へ…。現地手前では、道の中央に土砂崩れ対策の土嚢が置いてあったため、バスが通れず徒歩での現地入りとなりました。

牡鹿でもそうでしたが、被災地に初めて足を踏み入れて、今までに参加された皆さんが感じられた通り、ここが被災地で震災によって大きな傷を受けた場所であるということ、自分達も感じると共に、月並みかも知れませんが、改めて自然の力の大きさを感じました。

本日の作業は、今後の足掛かりとなる事前調査的なもので、土砂で埋まってしまった側溝の位置を調べるための掘り起こし作業となりました。かなり強い雨の降る中での作業となりましたが、前半は班毎に一定の距離を分け、側溝が見やすいよう土砂を取り除く事が出来ました。雨が強くなり、一度中断となってしまいましたが、与えられた作業は完了したいとのみんなの思いから、そのまま作業は再開。後半は多くの土砂が側溝の位置を完全に覆い隠している区画を、全員で掘り起こすこととなりました。側溝の位置を予測して、ツルハシで崩し、シャベルとスコップで土砂を取り除く…誰が声を掛けるでもなく、連携した作業の結果、指示された箇所の作業を終えることができました。

今日、作業した場所は「前網」と言う漁港で、女川原発が山を挟んだ向こう側にあると言う、そのような地域です。

今回は暑さではなく天気との闘いになりそんなボランティア活動ですが、最終日まで頑張りたいと思います。(報告者 東海:野田)

《活動2日目》 8月23日



今日の朝もあいにくの雨。昨日は雨の影響で作業があまり出来なかった事もあり、朝からブルーな気分になっていました。…が、なんと到着と同時に一転して雨雲が消え青空に！全員昨日の鬱憤を晴らすかのように張り切って作業へ！

今日の作業場所は昨日と違う場所になりましたが同じ牡鹿半島の港町。ここも昨日と同じく被害は甚大で、数件の家が残っているだけであとは根こそぎ津波が持って行ってしまった跡しかありませんでした。

作業内容は土砂が入り込んだままの水路の土砂の掻き出し。我々より前に来られたボランティアの方々が途中までつなげた続きを我々がやることに。他のボランティアの方々のバトンをしっかりと受け取った気分になり、あらためて強い絆を感じながら作業開始！

比較的小さな水路ということもあり、作業は順調に進んでいきました。最終的に全体で40メートル程度の水路をつなげることに成功しました。作業が予想以上に上手くいったこともあり達成感を味わえた半面、周りを見回すとたったこれしか出来なかったのかという無力感を味わう結果ともなりました。

しかし、暗いことばかり考えても仕方ありません。我々ができる限りの活動を行い次へ繋げる、これが一番大事なことであらためて感じました。

残りの三日間の作業を全力で頑張ります！明日も快晴でありますように。それでは！（報告者 中国労組 岩本 …雨男）

《活動3日目》 8月24日



災害救援活動も中日の3日目となりました。今日も天気は曇り空…夜に降った雨の為、肌寒い朝となりました。

今日の作業は昨日の続きで、側溝清掃を行いました。昨日は倒壊の恐れがあるとのことで、中断した箇所があったのですが、地元社協が調査した結果「イける」との判断から継続となりました。

作業内容は昨日と同じでしたが、違った点は半壊した民家の脇、すぐ横の側溝であったこと…震災のため土台が大きく抉り取られている箇所もあり、側溝の蓋の上にある土砂や瓦礫といった、堆積物を取り除く作業から活動が始まりました。

天候は…昨日を越える気温と陽射しの中で、雨男（…誰かは分かりませんが）の影響は全く受けることなく、真夏日となりました。

蓋の上の堆積物をのけ、側溝の蓋を開け、土砂を取り除く…堆積物や土砂は土嚢袋に詰め一輪車で数百m先の集積場所まで運ぶ。一連の作業を班単位で分担し、作業は行われました。最後に側溝の蓋を戻し、箒等でキレイにして作業完了となります。蓋が固くて動かない場所や、道路を横断する側溝もありましたが、誰が指示を行うでもなく、それぞれの判断や機転で問題を解決し、効率の良い作業が行えました。その結果、依頼のあった側溝は見違える姿となり、達成感をもって完了できました。

作業中は全員作業着の上に、土砂等での汚れを少しでも防ぐ為、白い使い捨て作業着を着るのですが、ナイロンでできているため、軽いのですが…通気性はありません。ある意味、サウナスーツを着ているような感じとなりますので、当然中は湿気と汗でベタベタになってしまいます。作業後の3人の姿を撮ってもらいましたが、下着まで大変な状態になっています。…が、自画自賛で申し訳ありませんが、達成感を伝えたくて写真に納めさせていただきました。

この地域は、震災時に道路が分断し孤立してしまった地域であることを印象付けるモノが、トイレ休憩で立ち寄ったコンビニにありましたので、その画像もあわせて掲載します…わかりますか？

今回の活動を通じてですが、被災地の一角で足を止め辺りを見渡すと、改めて言葉では



言い表すことのできない惨状に、ただただ見ることしか…360度のパノラマで見る被災地の風景は「自然の力の強大さと人間の無力さ」を突きつけてくる…そんな感じを受けました。

「やるせない…」そんな簡単な言葉では代用する事ができないコトは十分わかっていますが、改めて今回の震災が何をもたらしたのか、その一片を垣間見ることができたと思います。

お孫さんを連れた老夫婦が、津波で半壊した家を前に、身ぶり手振りを交えて話をしてる姿がとても印象的であり、こうやってこの震災の記憶も受け継がれていくのかなあ…そんな風に感じました。(報告者:東海 のだ……晴れ男)

《活動4日目》 8月25日



お疲れ様です。雨男の岩本です。今日の石巻市は曇りで気温もそれほど上がりず風も多少あり、ちょうどいい作業環境でした。これも曇り(グレー)男の傳田さんのおかげだと思います。

さて、今日は昨日までと同じ場所でしたが、内容は津波で浸水した家屋の家財を運び出す作業でした。この周辺は、津波で家屋ごと破壊された家屋がほとんどで、その家屋は重機でほぼ全て運び出されているものが多いのですが、今日伺った家屋は殆ど手つかずの状況でした。

震災から半年近く経過しているのです、家屋の中はむき出しになっている釘、ホコリ、臭いなどで昨日までの作業より危険度が高いものとなりました。そこで全労金チームはフル装備で作業にあたることに。野田さんはフル装備ではなかったためこの時は写真係です。さあ、作業開始。大きな一軒家だった為、その家財はかなりの量と重さでした。それを家屋から出しバケツリレーの要領でトラックへ積み込みます。その後、我々のメンバーが運転する軽トラックでガレキの集積場へ運ぶという流れの作業となりました。



家財の中には泥だらけになった家族写真、手紙、母子手帳、子供のおもちゃなど家族の思い出のものがたくさんありました。家主からは事前に全て処分してよいとの申し出があったそうですが、いざ写真や母子手帳などを見ると、「本当にそのまま処分してよいものだろうか」「もし自分の立場であれば絶対に捨てられない」と処分することに対して罪悪感のようなものをその場にいた殆ど方が感じたのではないのでしょうか。そこで念のため、そういったものは家主にもう一度確認をとるということで一時的に保管することになりました。作業時間も限られていたため全てのものを運び出すことはとてもできず、一階の3分の2程度で今日は終了しました。

最後に片付けを終えバスへ向かう途中であらためてガレキの集積場(写真下)を見上げましたが、本当に物凄い量です。現地の方に聞くと毎日あちこちから集められたガレキがここに積み上げられていくと仰っていました。昨日の石巻漁港のガレキの山を見ても思いましたが、本当にこのガレキをどうやって処分していくのか。私などが考えても仕方が無いことなのですが、今後の対応がとても心配になりました。また同時に自分の日常生活で出すゴミについても、もう一度よく考えなければと感じました。本当に勉強になります。

さて明日はいよいよ活動最終日です。今日の続きをするかどうかはまだ分かりませんが、残りのエネルギーを全て使う気持ちで頑張ってください！

最後に連日たくさんの応援メッセージを書き込んでいただいている皆さん、本当にありがとうございます。力が漲ってきます。皆さんの想いもしっかりと胸に留め最終日を無事に終え明日は帰路につきたいと思います。それでは?(報告者 中国労組 岩本……暑い男)

《活動 最終日》 8月26日



とうとう私たちの活動も本日が最終日となりました。みんなの気持ちは、「今日が最終日、悔いのないよう最後まで頑張ろう」でした。本日の活動場所・内容は、昨日と同じものでした。聞くと昨日の活動(チームワーク・丁寧さなど)に感謝され2日連続で依頼されることになったようです。2日目ということもあり作業も順調に進み、無事に予定していた活動を完了することが出来ました。5日間の活動を終えた今、3人のメンバー(野田、岩本、傳田の順に)から一言を以下に申し上げます。



《東海 野田》

最終日の活動を終え、胸に去来しているのは達成感ではなく無念さです。毎日BCから現地までは、片道約60km、時間にして往復え時間弱の時間が移動に費やされてしまっており、天候にも左右され、活動時間がとても短く「本当にこれで…」と感じています。それでも、地元の方と言葉を交わす際「お疲れ様です」「ありがとう」との言葉を聞くことができ、自己満足ではありますが来て良かったと思っています。今回の機会に送り出してくれた家族や職場の仲間、執行部の仲間には、心から感謝しています。また、事故や怪我もなく最終日を迎えることができたのは、ブログからのコメントという支えの賜物であることは言うまでもありません。たくさんの力を戴くことができました。本当にありがとうございます。今回の活動は、被災地が復興に向けて動き出すための足場作りであると感じています。東北は必ずや復興します。その想いを胸に帰路につきたいと思います。最後に、今回自分達3人は陸の孤島となったメディアの露出の少ない、復興の手があまり入っていない地域にいかせていただきました。『自分達の活動をテレビで見る猫』の画像は、メディアの情報を見聞きするだけでなく、ぜひ現地に来てほしいという私からのメッセージ(皮肉?)です。「自分達は微力だけど無力ではない」…今月始めに長崎平和行動に参加した際に、高校生平和大使のみなさんから頂いた言葉ですが、今回の活動にも当てはまる言葉だと思い、使わせていただきました。大切なことは継続すること…であると思います。今回の活動を第17次の方に引き継ぎ、今度は自分達が力をもらったコメントで、

次のメンバーを少しでも支えることができればと思っています。重ねてとなりますが、応援いただきまして、本当にありがとうございました。

《中国 岩本》

みなさん、お疲れ様です。雨男改め暑い男の岩本です。まさにあっという間の一週間でした。活動初日、現地の復興の為に力になろうと強い想いで現地入りしました。しかし、いざ現地に着くと想像のはるか上をいく現実を目の当たりにし、「一体自分に何か出来る事があるのか」と呆然となりました。初日の活動が終わった時点でも、思う様に作業が進まずに、復興支援なんて出来ないと半ば諦めかけていました。しかし、その不安は二日目以降に解消されました。それは、同じボランティアの仲間の力でした。各々の力ではどうしようも無いことが全員が助け合い、力を合わせることでここまでの事が出来るのかと改めて驚かされました。物凄く当たり前で簡単な感想ですが、これから被災地が一番必要としている力であると、この一週間の活動を通し私は感じました。それは、数の力と言うのか、団結力といったものなのかは分かりません。また、その団体が国や企業、あるいは労働組合であるのかも私には分かりません。しかし、我々一人一人がそういう力を持ち合わせているということを自覚し、今後それぞれの場所やそれぞれの行動で示していかなければならないと感じました。また、今回私が体験したことを私だけの中で終わらせては意味がありません。職場、地域、家庭において今回の体験を伝え周りに還元していきたいと思っています。傳田さん、野田さん、一週間大変お世話になりました。また、連日たくさんの応援メッセージを入れてくれた皆さん、本当にありがとうございました。また、いつの日がお会いしましょう。それでは？

《長野 傳田》

「私たちは瓦礫撤去の業者でもなければプロでもありません。作業に効率性を求めるあまり一番大事なこと＝被災者や被災地の心に寄り添うこと、それを忘れてはなりません。」活動期間中、そう心掛けました。バスでの移動中、公園で小さな子ども達が遊んでいました。また、漁師の息子と思える高校生らしき子が父親の運転する軽トラックの荷台に乗りながら走っている光景を目にしました。復興にはまだまだ多くの年月を要します。その子ども達にも夢や希望を持って欲しい。今の一つ一つの小さな集落も、元気な街になって欲しい。そう願っています。そして、引き続き復興支援を継続させ、出来ることを出来る限り続けていこうと思います。職場、全国の皆さん、連合の皆さん、大変ありがとうございました。被災地の少しでも早い復興をお祈りします。

《東京到着(最終報告)》 8月27日

私たち全労金3名含む連合救援ボランティア隊は、先ほど無事東京に戻ってきました。

この期間中に各産別や連合スタッフの方々とお話しすると、なかなか休みが取れずボランティアに参加出来ない社会人の方も多くいるようです。

私たちはこうして参加させていただく事ができ、改めて各職場、組合員の皆さんに感謝致します。また、ブログからも多くのご支援をいただき励みになりました。今回、目にしたこと、耳にしたこと、感じたこと、それらを今後一人でも多くの方々に伝えていければと思います。

野田さん、自ら考え行動する姿に感謝です。岩本さん、組合役員続けて下さい。私は、ボランティア休暇制度の導入を目指します。

28日からは第17次のメンバーが出発します。BCが代わりますが頑張ってください。(最終報告 長野=クール傳田) (写真撮影……てつ)



以 上